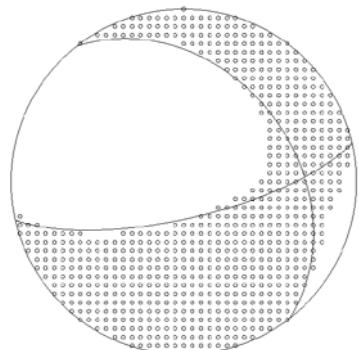


1月30日 ロシア、カムチャツカ半島の地震 (W-phase を用いたメカニズム解析)

W-phaseによる解

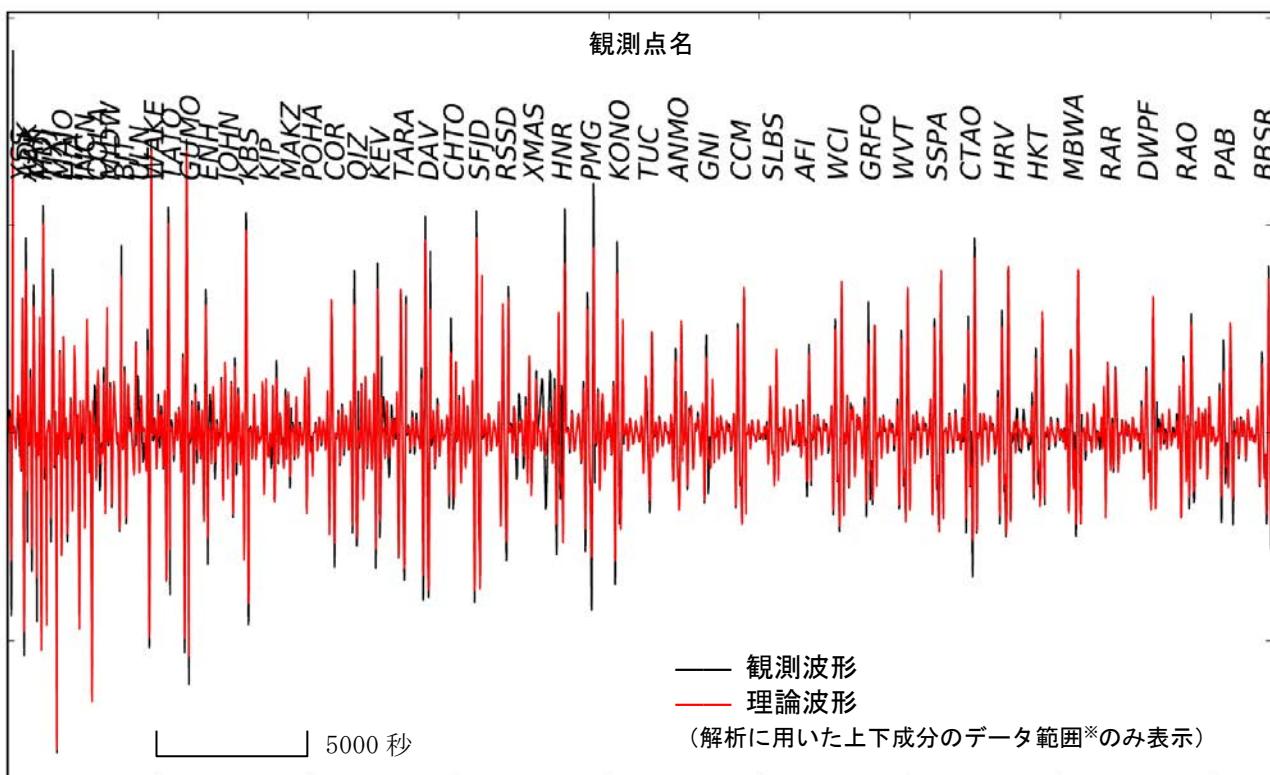


2016年1月30日12時25分(日本時間)にロシア、カムチャツカ半島で発生した地震についてW-phaseを用いたメカニズム解析を行った。メカニズム、Mwとも、Global CMTなどの他機関の解析結果とほぼ同様であり、Mwは7.2であった。なお、W-phaseの解析で求めた震源はN53.9°、E158.8°、深さ171kmとなった。

W-phaseの解析では、震央距離10°～90°までの52観測点の上下成分、44観測点の水平成分を用い、100～300秒のフィルターを使用した。

注) W-phaseとはP波からS波付近までの長周期の実体波を指す。

Mw	M_0	断層面解1(走向/傾斜/すべり角)	断層面解2(走向/傾斜/すべり角)
7.2	$8.51 \times 10^{19} \text{Nm}$	77.1° / 72.7° / -122.3°	321.9° / 36.2° / -30.3°



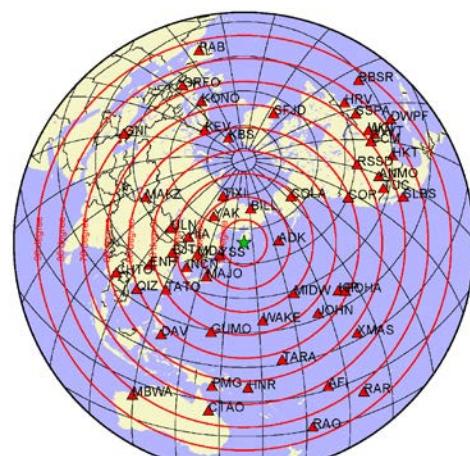
*解析に用いたデータの範囲は15秒×震央距離(度)としており、各々の観測点の解析区間のみを繋げた波形を表示している。

(W-phaseに関する参考文献)

Kanamori, H and L. Rivera, 2008, Geophys. J. Int., 175, 222–238.

解析データにはIRIS-DMCより取得した広帯域地震波形記録を使用した。

また、解析には金森博士及びRivera博士に頂いたプログラムを使用した。記して感謝する。



解析に使用した観測点配置
気象庁作成